

(続紙 1)

京都大学	博士（ 情報学 ）	氏名	Ngo Tung Duc
論文題目	Integrated Approach of Participation and Benefit Linkages for Effective Community Forest Management in Thua Thein Hue, Central Vietnam		
(論文内容の要旨)			
第1章はコミュニティフォレストマネジメント(以下CFM)に関する序論である。CFMは森林資源の適正な管理と地元住民の生活・経済基盤の拡充を目指した施策であり、ベトナムでは2000年代に各地で導入されてきた。しかし、住民参加と収益分配や効果的なCFMのモデルの構築などが課題となっている。そのため、典型的な住民参加方式、森林管理コストと木材収入の収支予測、CFMが具備すべき要件を明らかにすることを本研究の目的として述べている。 第2章はCFMに関する国内外の研究・報告書を比較分析である。CFMの概念について述べ、5つの大きな基準—法制度や権利、財政基盤、住民参加、資源と技術、外部からの支援—で比較検討している。 第3章では、本研究で用いた分析方法について述べている。住民参加と収益分配、木材収入予測、効果的なCFMのアセスメントの3つの課題の概念を述べるとともに、調査方法、分析法について述べている。調査は文献調査、地域のステークホルダーからの聞き取り、地域住民の集会での意見聴取、個別住民からの聞き取り、現地でのデータ収集と確認からなり、必要に応じそれらを繰り返すとしている。 第4章では、ベトナムにおける森林資源の変遷、資源管理体制、その中でのCFMの役割や特徴について述べている。CFMはベトナム北部に多く全森林面積の15%を占め、運営形態としては集落と住民グループ単位のものがある。政府はCFMの活動に資金援助はしないが50年間の森林管理の権利を与える。CFMに参加する住民は木材や林産物や利水権などの環境財を受益できる。また、研究対象地域であるフエ県のCFMの概要について述べている。 第5章では、フエ県3地域のCFMにおける住民参加と収益分配の分析結果について述べている。CFMに参加する住民はCFMシステムの地位に応じた義務と権利を有し、森林保護や育成管理に参加することは、木材などの林産物から得られる収益の分配と同様重要であることを示している。また、CFMでの参加住民の活動がもたらす良い結果と、課題を示している。 第6章では、システムダイナミックス (SD) の手法を用いた木材販売収入の予測について述べている。木材価格、森林の成長、不法伐採、搬出経費などを要因としたSDモデルを構築し、シミュレーションを行っている。現状の体制、より積極的な住民参加による森林管理などを比較し、住民の森林管理への積極的参加がより多くの木材収入をもたらすことを明らかにしている。 第7章では、CFMの成功例と失敗例の分析について述べている。失敗例は多基準分析法を用い、CFM関係者が基準細項目を10段階評価した結果を分析し、森林育成や技術資金などの外部支援の評価が著しく低いことを明らかにしている。成功例はCFMの導入経緯や収益分配の方法などの側面から分析し、住民の参加意識、非木材林産物による収益などが重要であることを明らかにしている。 第8章は本論文の総合考察である。CFMの計画では地域特性により差があり、住民参加と収益分配の考え方と実践では隔たりがあるが、積極的な住民参加は重要であり、SDによる収益予測はその有用な手段である。まとめとして効果的なCFMの要件として6項目挙げ述べている。			

(論文審査の結果の要旨)

- (1) 本論文は、ベトナムにおけるコミュニティフォレスト管理(CFM)における諸課題について議論を展開している。とりわけ住民参加と収益分配に注目し、CFMの評価や要件を現地調査結果などから分析している。CFMは山村部の住民の生活・経済基盤の拡充と森林資源の適正な管理を目指しているもので、この研究の成果は今後のCFMの展開にとって有益な指針を与えるものとして評価できる。
- (2) 本論文3章では、データ収集に関する方法について述べている。事前調査としての関連文献(研究調査報告書、各種統計等)調査と、本調査としての各種レベル(集落・グループ・個人)における聞き取り調査とその確認のための現地踏査を繰返し行っている。人間社会を対象とした調査は、さまざまなバイアスがかかるため、この方法は有用なひとつの手法として評価できる。
- (3) 本論文4章では、ベトナムにおけるCFMの役割や仕組みについて議論を展開している。実践されているCFMの現状と比較検討するために重要は導入部となっている。
- (4) 本論文5章では、フエ県においてCFMが実践されている3地域を対象とした調査の分析を行っている。各種レベルでの聞き取り調査やアンケートを分析したもので、住民参加が単に収益の分配を目指したものでなく、地域の森林を保護育成することも住民生活にとって重要であると認識している点を明らかにしている。また、個々の地域における評価すべき点や課題を分析し、CFMの改善方向を提示しており評価できる。
- (5) 本論文6章では、木材販売収入の予測をシステムダイナミクスの手法を用いて行っている。森林からの収益には木材と非木材系の林産物(ラタン、竹、薬草など)がある。非木材系林産物は収穫間隔が短く、収穫量の把握も容易である。木材は収穫までの期間が長く、その間に不法伐採などもあり、CFMの設定期間50年で、どのような管理をすれば、どれだけの収穫が見込まれるかを予測し、参加住民に提示することができれば、有用な合意形成の手段となる。構築したSDモデルでは森林の成長や木材価格などのパラメータを設定することで、これを可能としており評価できる。また感度分析の結果、木材価格や収益分配率などが重要であることを明らかにしており、今後のCFMの制度設計や改善の指針となり評価できる。
- (6) 本論文7章では、実践されているCFMの失敗例と成功例について分析している。多基準分析法は幾つかの評価項目を複数の関係者が10段階で評価するものである。実施された評価シートの内容はCFM評価として妥当であり、これをCFM評価の共通尺度として一般化できる可能性が高く評価できる。また、CFM設定前後の地域住民と森林に関わりやその活動経緯を分析し、自治意識の向上がCFM成功に重要であることを示しており、CFM設定の指針として評価できる。
- (7) 本論文8章では、効果的なCFMの要件6項目について提案しており、今後のCFM展開の重要な指針として評価できる。

よって、本論文は博士(情報学)の学位論文として価値あるものと認める。

また、平成23年8月11日に実施した論文内容とそれに関連した口頭試問を行った結果合格と認めた。